

令和4年度 事業報告



岡山理科大学附属中学校



優れた教育を提供し、学んでいる子ども達の学力をさらに伸ばし、難関大学・難関高等学校入試を突破するだけでなく、社会に出て各分野で活躍できる人材を育成します。



経済や社会の構造が変化し、情報、文化のグローバル化が進むとともに、科学技術がめざましく進展する現在の社会では、社会の様々な分野において、その導き手となって課題解決を行い、未来に向かい発展させることができる人材を育てていくことが、喫緊の課題になっています。このため、中等教育の段階では、まずは、学びの基礎となる学力を定着させるとともに、自ら学び、自ら考え、協働的に行動することのできる人格の形成が重要です。このため、事業計画に掲げた次の項目に重点を置いた教育活動と学校運営を展開しました。

I. 教育の推進

1) 学力を定着・向上させるための対応

多様な進路志望に対応するコースを編成し、しっかりとした学力を身につけ、さらに、論理的な思考力や表現力を育むことで、進路を見据えて学んでいく力の育成に努めました。

2) 自らを律する人格の形成と基本的な学習生活習慣の確立

人格形成を促す「立志三風」の校訓を基にした指導を進め、また、生活習慣を確立する指導を実施しました。さらに、学校行事などでは、リーダーとなる人間力の形成を狙いとした活動を行いました。

II. 生徒の支援

生徒の多様な資質や希望に応える進学ルートを設計するとともに、学校や家庭生活における相談や指導に対応するための支援体制を充実させました。

III. 地域社会との連携

地域社会と良好な社会的関係を構築するために、登下校時のマナー順守を行わせるとともに、地域社会との関わりの重要性を生徒に理解させてきました。

IV. 国際化の推進

国際人の基礎となる英語力の向上を生徒全体を対象に進めました。また、附属高校で実施されている国際バカロレア教育を実際に体験しました。

V. DXの推進

GIGAスクール構想で導入したPCを活用して共同学習や英語力向上のWEB授業を実施しました。

VI. ガバナンス体制と内部質保証システム

学校運営の会議を改革し、中学校と高等学校間で連絡調整を進め、統一された方針による学校運営を進めました。また、学校活動の評価や生徒による評価を実施し、内部質保証を充実させました。

岡山理科大学附属中学校 校長 田原 誠

I. 教育の推進

1. 学力の定着・向上についての目標

中期計画	令和4年度 事業計画	令和4年度 事業報告	評価
<p>[1] 学力の定着・向上についての計画</p> <p>1) 進路志望への対応</p> <p>進路志望に対応したクラスやカリキュラム、さらに教育内容の最適化を進めて生徒の志望に応じた指導に取り組む。</p>	<p>[1] クラス編成と教育目標</p> <p>多様な進路志望に対応できるSR(Special Route)コース*編成により、深い学びを通してしっかりとした学力を身につけ、自分の進路をしっかりと考えて選択できる力の養成に努めています。</p> <p>【SRコース*：難関県立高校等をめざす3年間ルート、附属高校で学び国公立や難関私立大学をめざす6年間ルート、附属高校から岡山理科大学等の関連校に進学する10年間コースを示す。】</p>	<p>[1] クラス編成と教育目標</p> <p>多様な進路志望に対応できるようにするための基礎学力を高める指導を共通で行うため、1・2年生は、両クラス平等編成を行いました。</p> <p>3年生は、後期より難関公立高校進学を目指すグループと岡山理科大学附属高校へ進学するグループに分かれて授業を行いました。令和5年度高校入試においては難関県立高校に多数の生徒が進学することができました。</p> <p>【主な合格実績】</p> <p>岡山理科大学附属高等学校 29名 岡山朝日高等学校 5名 岡山操山高等学校 1名 岡山一宮高等学校 2名 岡山城東高等学校 1名 岡山芳泉高等学校 2名 岡山工業高等学校 2名 倉敷青陵高等学校 3名 倉敷天城高等学校 1名</p>	A
	<p>[2] 共通の教育目標</p> <p>少人数教育を生かして、生徒の学力の向上を進めます。さらに、国際的な視野を持ちながら、自己の将来を見据えて生徒が進路選択できる力を身につけるよう指導します。</p>	<p>[2] 共通の教育目標</p> <p>中学校は、全学年がSRクラスとなり、外部の高校、または、岡山理科大学附属高校への進学を選択できる体制となりました。どちらの高校への進学においても、将来を見据えた上で進路を実現する力を身につける教育を進めました。</p>	A
<p>2) 思考力・表現力などの養成</p> <p>論理的な思考力や表現力を育む授業をカリキュラムに取り入れる。また、一人1台端末の機能を十分活用する授業を実施する。</p>	<p>[3] カリキュラム</p> <p>中学3年生の段階で難関公立高校や難関私立高校への進学を目指す生徒には、進学に必要な学力を養成します。また、高校で求められる、自分の考えをわかりやすく説明できる力の養成に努めます。中高一貫コースで学んできた生徒には、基礎学力の充実を基に、国公立大学や難関私立大学への進学に必要な学力を育成します。また、探求活動を推進し、科学的・論理的な思考能力を高めます。</p>	<p>[3] カリキュラム</p> <p>中高一貫コースとして設計した授業時間を、中学校での学習内容を深く学び直す時間に充てることで、進学に必要な基礎学力の充実を行いました。国語授業で、「論理」の時間を設定して、論理的に考え説明する力の養成を行いました。中高一貫コースで学んできた高校クラス(第5と第6学年)の生徒には、コースとして設計した授業時間を大学入試に備える学習に充てることで、進路の開拓に必要な力の育成を行いました。</p>	A

中期計画	令和4年度 事業計画	令和4年度 事業報告	評価
	<p>[4] 論理力向上のための取り組み 国語授業の中で「論理エンジン」を副教材として取り扱い、論理的な文章構成の把握や文章作成の能力を養います。また「Literas 論理言語力検定」や「作文検定」を受検し、論理的思考力・表現力の定着度を測ります。</p>	<p>[4] 論理力向上のための取り組み 国語授業の中で「論理」の時間を週1回設定して、「論理エンジン」を副教材として、論理的な文構成の把握や文章作成の能力を養いました。また、「作文検定」を受検して、目標数値である3級以上合格者90%以上を達成しました。</p>	A
	<p>[5] GIGA スクール構想への対応 昨年度、校内の高速インターネット環境の整備と合わせて導入した生徒一人一台の端末を活用して、プログラミング等のICT教育や対話型の学びの実践に取り組みます。</p>	<p>[5] GIGA スクール構想への対応 中学校全生徒に見合う台数のクロームブックを学内に確保し、それを貸与する形で学習を行いました。クロームブックを活用した学習として、英検対策のアプリ学習やプログラミング学習アプリLifeIsTechなどを実施しました。</p>	B
<p>3) 授業改善のための教員の教える力の改善 授業改善のために必要な教員研修を実施する。</p>	<p>[6] 授業改善 これからの授業に必要とされるアクティブラーニングでの授業やGIGAスクール構想などのICTを活用した授業方法、生徒の評価方法などの教職員研修会を定期的に実施します。さらに、「Classi」（ベネッセ）を利用して、教員間の情報共有を図ります。 また、他者を尊重しながら自分の考えを表し、深める力や論理的に考えることが出来る力の養成に努めるために、岡山理科大学附属高等学校が取り組んでいる国際バカロレアの教育手法を取り入れます。 さらに、教員の教育力強化のため、ケンブリッジ大学英語検定機構認定西日本試験センターJP176と連携を継続します。</p>	<p>[6] 授業改善 各教科において、教科主任を中心とした教科会議を開催し、授業改善の取組みを推進しました。定期的に受験する模擬試験の結果についても、進路指導課が主導して学年の成績を踏まえた分析を進め、教科担当で情報を共有するとともに指導の改善につなげるようにしました。 国際バカロレア教育を附属高等学校で担当している教員から生徒や関係教員に説明する機会を設けました。 学園内にあるケンブリッジ事務局と連携を取り、英語だけのテキスト等を用いて、英語に対する興味・理解を深め、「活かた」英語に触れ、SDGsについて英語を用いながら理解する機会を増やしました。</p>	B
	<p>[7] 教科会議・学年団会議の強化・連携 各教科において、教科主任を中心とした教科会議を開催し、授業改善等の取組みを推進し情報を共有することで、効率的な生徒の学力向上を図ります。 また、学年団会議ならびに中学校担任会議において、生徒の情報を共有することで、的確な指導を行います。</p>	<p>[7] 教科会議・学年団会議の強化・連携 各教科において、教科主任を中心とした教科会議を開催し、授業改善等の取組みを推進しました。課題提出状況について、教員用共有サーバ上にデータを共有するようにして、クラス担任が未提出者への指導に役立てるように工夫しました。また、中学校担任会議において、生徒指導上必要な情報を共有しました。</p>	B

2. 人格の形成と学習生活習慣の確立の目標

中期計画	令和4年度 事業計画	令和4年度 事業報告	評価
<p>[2] 人格の形成と学習生活習慣の確立の計画</p> <p>学校行事などの機会を通して、校訓や教育方針の積極的な指導を行う。また、服装と挨拶の励行を指導する。</p>	<p>[8] 校訓</p> <p>私たち教職員一同は、加計学園建学の理念の下、「立志三風」を掲げ、「生活三則」の指導に一丸となって取り組んでいきます。</p> <p>立志三風 生活三則</p> <p>一、慎独・去稚心の志 一、場を清めましょう</p> <p>風を守る（自主） 一、時を守りましょう</p> <p>一、振気・勉学の良風 一、礼を正しましょう</p> <p>を尚ぶ（努力）</p> <p>一、忠恕・爽凜の美風</p> <p>を養う（友愛）</p>	<p>[8] 校訓</p> <p>「立志三風」は全教室に掲げています。また、卒業式の際に実施する立志式を始め、生徒会選挙の立会演説会など生徒全員が関係する行事では、これらの校訓を確認する活動を行いました。</p>	A
	<p>[9] 服装指導の実施</p> <p>モットーは「凜とした爽やかさ」です。規定のものに限らず全てにおいてTPOに合わせ、清々しさを持った着こなしを指導します。</p>	<p>[9] 服装指導の実施</p> <p>クラス担任ならびに生徒指導課を中心に、シャツや上着の着こなし方について日頃から指導しました。乱れた服装は見られない状況です。</p>	A
	<p>[10] 挨拶の励行</p> <p>朝のあいさつ運動や職場体験などを通して、気持ちを込めて挨拶ができるように、また、正しい言葉遣いができるように指導します。この指導が面接での自己表現力に繋がるように努力します。</p>	<p>[10] 挨拶の励行</p> <p>毎週水曜の登校時に、あいさつを指導しています。職員室入室時のあいさつ指導も徹底しており、あいさつの励行ができるようになっていきます。</p>	A
	<p>[11] 共通の教育目標</p> <p>基本的な生活習慣を確立して、集団の中で協力しながら生徒が主体的に活動できる力を身につけるよう指導します。</p>	<p>[11] 共通の教育目標</p> <p>HR活動を中心に、クラス内の仕事を協力して取り組むように指導しました。また、生徒会委員会を定期的に開催し、生徒が主体的に集団活動を運営するようにしました。</p>	A
	<p>[12] 将来につながるリーダーの育成</p> <p>体育祭、爽凜祭（学習発表会）、球技大会、オープンスクールなど様々な学校行事は実行委員の生徒が主体的に運営します。生徒はこのような自主活動の中で企画力、実践力、思考力などを高め、それぞれの人間形成力を育みます。</p>	<p>[12] 将来につながるリーダーの育成</p> <p>コロナ禍により、一定の制限がかかりましたが、体育祭、爽凜祭（学習発表会）、球技大会などの行事を実施し、生徒が主体的に運営しました。このような活動を企画し、共同して実施することで、社会的な活動に欠かせない対話やチームワークの精神などの修得に繋がりました。</p>	A

II. 生徒の支援

1. 生徒の多様な資質や志望に応えるための目標

中期計画	令和4年度 事業計画	令和4年度 事業報告	評価
<p>[3] 生徒の多様な志望に応えるための計画</p> <p>生徒の志望に沿って、体系的に学習し、体験する機会を提供し、各自のキャリア実現に求められる学力や能力を育成する。</p>	<p>[13] 学習計画の指導</p> <p>「学習の記録」にその日に取り組む学習計画を書き、できたことをチェックする習慣が身につくよう、指導します。また、「自分史プロジェクト」と題して、さまざまな活動についての振り返りをまとめ、ポートフォリオが作成できるよう指導します。</p>	<p>[13] 学習計画の指導</p> <p>「生活記録ノート」を利用しながら毎日のTo-Doチェックを行いました。さらに、「自分史プロジェクト」を通じて、学力の振り返りのみならず、定期的に自己の振り返りを行うとともに、将来の目標に向かって励んでいく行動が実現できるように指導を行いました。</p>	A

2. 多様な生徒の支援に関する目標

中期計画	令和4年度 事業計画	令和4年度 事業報告	評価
<p>[4] 多様な生徒の支援に関する計画</p> <p>健康管理や学校生活及び家庭生活における具体的な相談や指導に対応するため、生活支援体制を更に充実させる。</p>	<p>[14] 家庭、地域社会との協力・連携強化</p> <p>毎日の生活記録ノートの確認などを通じ、生徒の学校生活や地域および家庭での生活などをサポートします。</p>	<p>[14] 家庭、地域社会との協力・連携強化</p> <p>「生活記録ノート」を活用して、保護者との繋がりを確保するとともに、生徒が家庭ですべきことを計画して振り返りをするよう、指導を行いました。</p>	A
	<p>[15] 教育相談室・保健室との連携</p> <p>思春期である中学生期を心身ともに健康に過ごせるように、担任や生徒指導課と教育相談室及び保健室が綿密に連絡を取り、連携を強化します。</p>	<p>[15] 教育相談室・保健室との連携</p> <p>コロナ禍により、生徒同士の関係作りが難しくなっているため、保健室・教育相談室の利用者が増える傾向にあります。また、保護者からの教育相談も多くなっています。担任と教育相談室・保健室の連携により、小さな芽の状態から問題をとらえるように努めました。</p>	A

III. 地域社会との連携

1. 良好な社会的関係構築に関する目標

中期計画	令和4年度 事業計画	令和4年度 事業報告	評価
<p>[5] 良好な社会的関係構築に関する計画</p> <p>登下校時の中学生としてのマナー順守を徹底する。</p>	<p>[16] 家庭、地域社会との協力・連携強化</p> <p>中学生専用の定期バスの乗車指導・通学指導などの登下校指導の実施、毎日の生活記録ノートの確認などを通じ、生徒の地域および家庭との良好な関係を構築します。</p>	<p>[16] 家庭、地域社会との協力・連携強化</p> <p>中学生専用の定期バスの乗車指導・通学指導などの登下校指導を欠かさず実施し、地域との良好な関係を保ちました。また、家庭向けの情報誌「学校だより」の定期的な発行や「生活記録ノート」の確認、PTAの協力による保護者会や茶話会の定期的開催によるコミュニケーション強化を通じて、家庭との良好な関係を構築しました。</p>	A

2. 地域教育の目標

中期計画	令和4年度 事業計画	令和4年度 事業報告	評価
<p>[6] 地域教育の計画</p> <p>教育活動やマナー指導を通して、地域社会との関りの重要性を生徒に説明する。</p>	<p>[17] 社会規範育成への取組</p> <p>外部講師による講演などを活用し、規範意識の啓蒙に努めます。学校独自の規則だけではなく、アクティブラーニングやプレゼンテーションの指導を通じ、その場の状況に適した言動が取れるよう、常日頃から生徒への指導や話し合いを行います。</p>	<p>[17] 社会規範育成への取組</p> <p>ホームルームや道徳授業を通じて、学校という狭い世界だけでなく、社会に所属する意識を持って生活するよう意識付けを行いました。</p> <p>総合的な学習の時間などでプレゼンテーションの指導を通じ、その場の状況に適した言動が取れるような指導を工夫しました。</p>	B
	<p>[18] 情報教育</p> <p>生徒のインターネットリテラシーの現状を踏まえ、情報モラルの向上に努めます。その一環として岡山県警察本部より講師を招き、「インターネットモラル教育」の講演を実施します。また、SNS等個人情報の適切な扱いを指導します。</p>	<p>[18] 情報教育</p> <p>12月に岡山県警察本部の講師による「非行防止教室」を開催し、その中で「インターネットモラル」の向上に関する内容を含む講義を実施していただきました。また、生徒に対する情報モラルの向上のための指導を生徒指導課により実施しました。</p>	B
	<p>[19] 塾との関係の強化</p> <p>中学校入試における私塾の影響力は大きく、多様化する生徒・保護者の進路実現に向けて、各塾に対しタイムリーな情報発信をします。</p> <p>従来の塾訪問に加えて、各教職員がそれぞれの通勤経路の付近の塾を訪問する「通勤経路型塾訪問」を実施し、それぞれの塾に本校教職員の担当を固定し、相当数の塾訪問を計画し、円滑に実施します。</p> <p>さらに、入試結果を踏まえた塾対象入試説明会を6月に実施予定です。</p>	<p>[19] 塾との関係の強化</p> <p>塾や小学校との良好な関係の構築とその維持のために、専属担当者2名による活動を展開しました。定期的な訪問を通じたコミュニケーションにより、関係性をより強固にすることができました。また、大小問わず、塾での個別の説明会に対応し、講演を行うことで、情報提供の場を多く設けることができました。専属担当者による活動により、統合的な塾対応が実現しているため、個別教員による塾訪問は実施しないことにしています。</p>	S

IV. 国際化の推進

1. 国際力向上の目標

中期計画	令和4年度 事業計画	令和4年度 事業報告	評価
<p>[7] 国際力向上の計画</p> <p>全クラスで英会話授業を実施し、英検やケンブリッジ英検での取得目標を学年ごとに提示して、英語力の向上を進める。また、附属高校で実施されている国際バカロレア教育を取り入れた活動を実施する。</p>	<p>[20] 英会話</p> <p>英会話を1～3年生の全クラスで実施し、自ら積極的にコミュニケーションをとれる姿勢を養います。また、4技能（聞く、話す、読む、書く）に対応したケンブリッジ大学英語検定機構が発刊するコースブック・英語教材を使用します。</p>	<p>[20] 英会話</p> <p>総合的な学習の時間に英語を母語とする教員に担当してもらい、日常的な英会話を生徒が学ぶ機会を設けました。</p> <p>英会話授業を全クラスで実施し、自ら積極的にコミュニケーションをとれる姿勢を養いました。4技能（聞く、話す、読む、書く）に対応した指導を、ケンブリッジ大学英語検定機構認定西日本試験センター JP176 スタッフの協力を得て実施しました。</p>	B
	<p>[21] 実用英語技能検定・漢字能力検定を全生徒に実施</p> <p>(1) 1年在籍生徒の9割以上が5級以上の取得を目標とします。</p> <p>(2) 2年在籍生徒の8割以上が4級以上の取得を目標とします。</p> <p>(3) 3年在籍生徒の6割以上が3級以上の取得を目標とします。</p> <p>(4) 教員が生徒に対し、積極的に受験指導を行います。</p>	<p>[21] 実用英語技能検定・漢字能力検定を全生徒に実施</p> <p>漢字検定は11月に、英語検定は1月までに全員受験しました。漢字検定については、1年5級以上は85%、2年4級以上64%、3年3級以上27%の目標達成率でした。一方、英語検定は、今年度は45名が3級以上を取得することができました。英検対策アプリの取り組み効果もあったのではないかと思います。</p>	B
	<p>[22] TOEFL Primary Testを1・2年生に実施・希望者にケンブリッジKey Test実施</p> <p>(1) 1年修了時にはCEFRのA2レベルをクリアすることを目標にします。</p> <p>(2) 2年修了時にはCEFRのB1レベルをクリアすることを目標にします。</p> <p>(3) CEFRのB1レベルをクリアした生徒にはTOEFL Junior Standardの受験を勧めます。</p>	<p>[22] TOEFL Primary Testを1・2年生に実施・希望者にケンブリッジKey Test実施</p> <p>TOEFL Primary Testは、行事過密のため、今年度は実施を見送りました。また、希望者に実施したケンブリッジKey Testでは、CEFR A2レベルに、4名が到達しました。</p>	B
	<p>[23] 国際バカロレア教育の活用</p> <p>附属高等学校で実施されている国際バカロレア教育の手法を取り入れ、課題に対して論理的・批判的に考えて研究する取り組みを設けます。</p>	<p>[23] 国際バカロレア教育の活用</p> <p>国際バカロレア教育を附属高等学校で担当している教員から生徒や関係教員に説明する機会を設けました。</p>	B

V. DXの推進

1. ICT活用に関する目標

中期計画	令和4年度 事業計画	令和4年度 事業報告	評価
<p>[8] ICT活用に関する計画</p> <p>ICT活用推進のためのFD実施及び各種証明書の申請手続きのweb化を図る。</p>	<p>[24] 教職員研修</p> <p>これからの授業に必要とされるアクティブラーニングでの授業やGIGAスクール構想などのICTを活用した授業方法、評価方法などの教職員研修会を定期的実施します。</p>	<p>[24] 教職員研修</p> <p>教職員のICT技能については、クロームブックにより、Google Classroomやロイロノートスクールを実際に利用し、教員間で情報交換することで、技能の向上を進めました。</p> <p>保護者連絡や、成績処理など統合的に利用できるデジタルプラットフォーム（BLEND）を導入し、教職員に使用方法を講習することで、生徒出欠登録や成績処理などをICT処理化しました。</p> <p>また、職員室にデジタルサイネージを設置し、その利用方法を教員に周知することで必要な情報の共有を徹底できるようにしました。</p>	B
	<p>[25] 申請手続きのweb化</p> <p>各種証明書の申請手続きweb化のための各種方法を調査し、比較検証します。</p>	<p>[25] 申請手続きのweb化</p> <p>各種証明書の申請手続きなどを含めた事務的な作業の電子化には、学園として共通のプラットフォームの構築が重要であるとの結論に至りました。</p> <p>前項目で述べたBLENDの活用により、欠席連絡の処理や保護者への連絡通知などをICT処理化しました。</p>	C

VI. ガバナンス体制と内部質保証システム

1. 学校運営の改善及び効率化に関する目標

中期計画	令和4年度 事業計画	令和4年度 事業報告	評価
<p>[9] 学校運営の改善及び効率化に関する計画</p> <p>校長がリーダーシップを発揮できる環境を充実させるため組織及び運営の改善を継続的・恒常的に実施する。</p>	<p>[26] 学校運営会議の強化</p> <p>校長、教頭、事務部長、並びに校務分掌の課長で組織する運営会議において、学校全体の運営方針に基づき、学校運営が円滑かつ革新的に進むよう、学校業務の企画立案および連絡調整を強化します。</p>	<p>[26] 学校運営会議の強化</p> <p>校長、教頭、事務部長、並びに校務分掌の課長で組織する運営会議において、中学校の校務分掌課長を加えて中高合同で行う会議を隔週ごとに実施しました。これにより、中学校と高等学校間で情報の交換と連絡調整を進め、効率的で統一された方針による学校運営を進めました。</p>	B

2. 教育の質保証に関する目標

中期計画	令和4年度 事業計画	令和4年度 事業報告	評価
<p>[10] 教育の質保証に関する計画</p> <p>アクティブラーニングの導入やIB教育の理念を取り入れた授業を実施することにより効果的な教育方法・教育内容を充実させる。</p>	<p>[27] 授業改善 ([6] 再掲)</p> <p>これからの授業に必要とされるアクティブラーニングでの授業や GIGA スクール構想など ICT を利用した授業方法、評価方法などの教職員研修会を定期的に行います。さらに、「Classi」(ベネッセ)を利用して、教員間の情報共有を図ります。</p>	<p>[27] 授業改善 ([6] 再掲)</p> <p>各教科において、教科主任を中心とした教科会議を開催し、授業改善等の取り組みを推進しました。定期的に受験する模擬試験の結果についても、教科担当で情報を共有するとともに学年の成績を踏まえて、指導の改善につなげるようにしました。また、中学校担任会議において、生徒の情報を共有しました。</p>	B
	<p>[28] 国際バカロレア教育の活用</p> <p>附属高等学校で実施されている国際バカロレア教育の手法を取り入れ、課題に対して論理的・批判的に考えて研究する取り組みを設けます。</p>	<p>[28] 国際バカロレア教育の活用</p> <p>国際バカロレア教育を附属高等学校で担当している教員から生徒や関係教員に説明する機会を設けました。</p>	B

3. 内部質保証に関する目標

中期計画	令和4年度 事業計画	令和4年度 事業報告	評価
<p>[11] 内部質保証に関する計画</p> <p>内部質保証を充実させ、組織運営の改善に活用するため、的確な評価指標を設定し、適正な個人評価(教員活動評価)を実施する。</p>	<p>[29] 生徒による授業評価・教員自身による授業評価</p> <p>確かな学力を育むために、教員の授業改革が生徒にどのように受け止められているのかを知り、生徒の側から捉えた授業改善を進めるとともに、教員自らが自己評価を行いながら改善点を明らかにして、授業改善に活かします。</p>	<p>[29] 生徒による授業評価・教員自身による授業評価</p> <p>生徒による授業評価を12月に実施しました。この成果をもとに、教員自らが授業改善を行うこととしました。</p>	B
	<p>[30] 生徒・保護者・第三者による学校評価</p> <p>学校教育活動が教育目標の実現のために適切に行われているかどうかについて、生徒・保護者ならびに第三者による外部評価をいただき、それを基に学校教育活動のさらなる改善を図ります。</p>	<p>[30] 生徒・保護者・第三者による学校評価</p> <p>本年度の学校評価を1月に行い、結果を集計、分析しました。また、集計結果を保護者に示して意見を聴取しました。これらの検討を踏まえて、来年度の学校教育活動の改善につなげます。</p>	B

4. 財政基盤の強化に関する目標

中期計画	令和4年度 事業計画	令和4年度 事業報告	評価
<p>[12] 財政基盤の強化に関する計画</p> <p>経費を抑制するため財務情報等を活用し、財務分析を行うことにより業務の現状を検証し資源配分の重点化や経費削減など、より一層の効率化を実現する。</p>	<p>[31] 財政基盤の強化</p> <p>学校運営を行うために、定員の確保を最優先課題として受験生のニーズに沿った募集活動を展開するとともに、体力のある組織を構築するために、改革と削減に加えて選択と集中により人件費及び教育研究経費、管理経費の全体適正に取り組みます。</p>	<p>[31] 財政基盤の強化</p> <p>財政基盤の強化のために、定員の確保を最優先課題として募集活動を展開してきました。その結果、令和4年度には73名の入学を得ました。さらに、令和5年度の入学生については、定員（80名）を超える新入生の入学が見込まれています。</p>	S

※評価欄は各事業の達成度及び成果を自己評価したもの。n

S：目標以上の成果（105%～） A：目標を達成（100～104%） B：目標をほぼ達成（90～99%）

C：課題が残る（70～89%） D：未達・未実施（～70%）

主な行事予定	
4月8日	始業式
4月9日	入学式
4月14日	健康診断
4月16日、5月7日、5月28日	授業参観 [※学年別に設定]
9月7日～9日	修学旅行
9月23日	体育祭（岡山ドーム）
10月29日	爽凜祭（学習発表会）
12月15日	百人一首大会
2月3日、4日	校外活動
3月11日	卒業式
3月17日	終業式

学生数・教職員数

■在籍生徒数

(令和4年5月1日現在)

学校名	入学定員	入学者数	収容定員	在学者数
岡山理科大学附属中学校	80	73	240	194

(単位：人)

■教職員数

(令和4年5月1日現在)

校長	教頭	教諭	教員計
1※	1	10	11

※校長は附属高等学校と兼任

事務職員
1

(単位：人)

財務関係

■事業活動収支

(単位：千円)

科目		年度	令和4年度 予算額	令和4年度 決算額
教育活動 収支	収入	学生生徒等納付金	105,919	106,100
		経常費等補助金	63,804	66,519
		その他収入	5,571	5,976
		計	175,294	178,595
	支出	人件費	124,367	127,820
教育研究経費		37,499	37,495	
管理経費		13,081	11,867	
その他支出		0	13	
	計	174,947	177,194	
教育活動収支差額			347	1,401
教 活 外	収入	受取利息等	0	0
	支出	借入金利息等	0	0
	教育活動外収支差額	0	0	
経常収支差額			347	1,401
特 別	収入	資産売却差額等	0	0
	支出	資産処分差額等	0	0
	特別収支差額	0	0	
基本金組入前収支差額			347	1,401
基本金組入額合計			△ 200	△ 973
当年度収支差額			147	428

■施設設備整備報告

令和4年度においては施設改修、大型設備の設置はありませんでした。

■財務改善に向けた取組

今後、岡山県内の12歳人口が急速に減少することを踏まえ、安定的な学校運営を行うためには定員の確保が最優先課題であり、受験生のニーズに沿った募集活動はもとより、在校生の満足度を上げる必要があると考えます。募集活動においてはオープンスクールや入試だけでなく、学校の情報をホームページ、FacebookやInstagramでも、迅速に幅広く提供しました。さらに中学校入試における私塾の影響力は大きく、多様化する生徒・保護者の進路実現に向けて、各塾に対しタイムリーな情報発信をしました。在校生について教育活動はもとより思春期である中学生期を心身ともに健康に過ごせるように、担任や生徒指導課と教育相談室及び保健室が綿密に連絡を取り、連携を強化しています。また、SRコースを導入して4年目となり、難関県立高校等の進学を目指す3年間ルートでの実績が入学生確保の鍵となるので、その充実に努めます。